

最近の食育をめぐる状況について

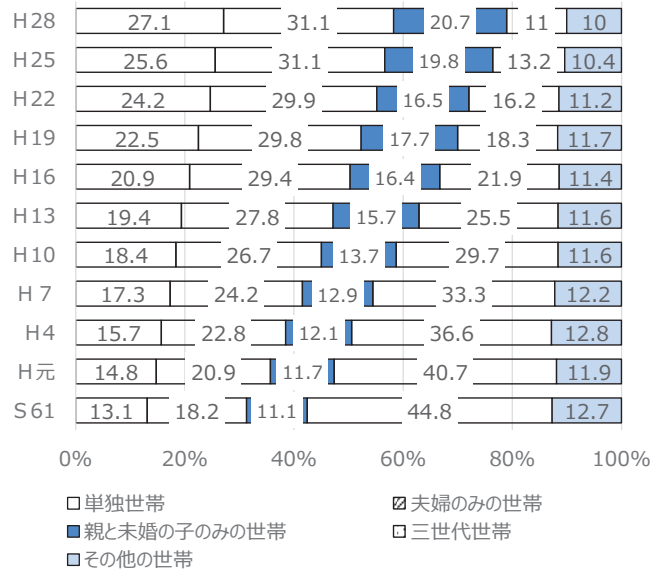
(1) 食生活をめぐる状況

生活様式等

- 共働き世帯が増加している。
- 6割近くの高齢者が、単独世帯及び高齢者のみの世帯であり、割合は年々増加している。



65歳以上の者のいる世帯の世帯構造の年次推移 (%)

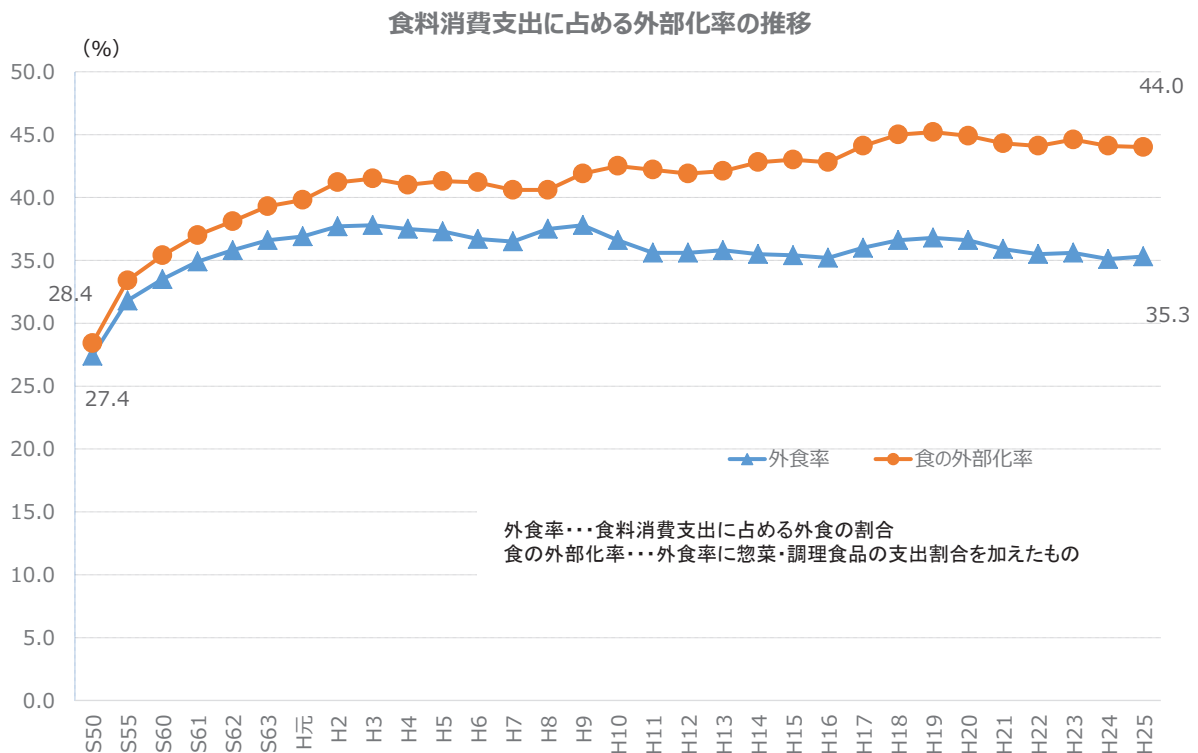


厚生労働省「厚生労働白書」、内閣府「男女共同参画白書」、総務省「労働力調査特別調査」(2001年以前)及び総務省「労働力調査(詳細集計)」(2002年以降)

国民生活基礎調査
 ※「親と未婚の子のみの世帯」とは、「夫婦と未婚の子のみの世帯」及び「ひとり親と未婚の子のみの世帯」

食を取り巻く社会環境

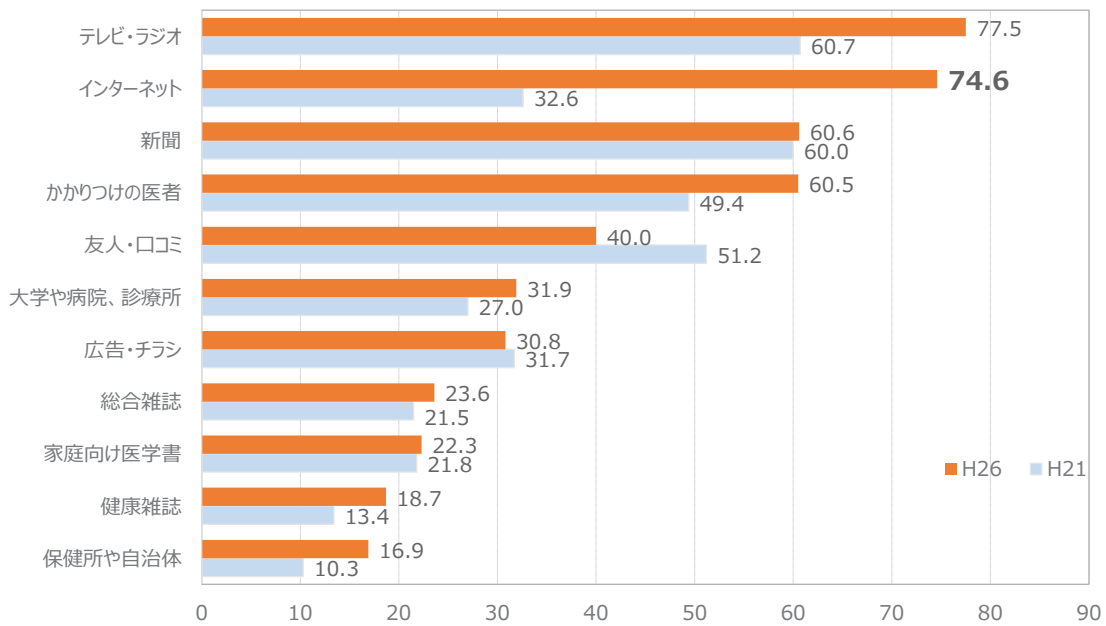
- 外食への依存や、惣菜や調理食品の利用が増加し簡便化が進んでいる。



インターネット等の普及

- 食品や食べ方など、食に関する情報が増大している。
- 健康に関する情報を、インターネットから得る者が増加している。

健康に関する情報への接触度

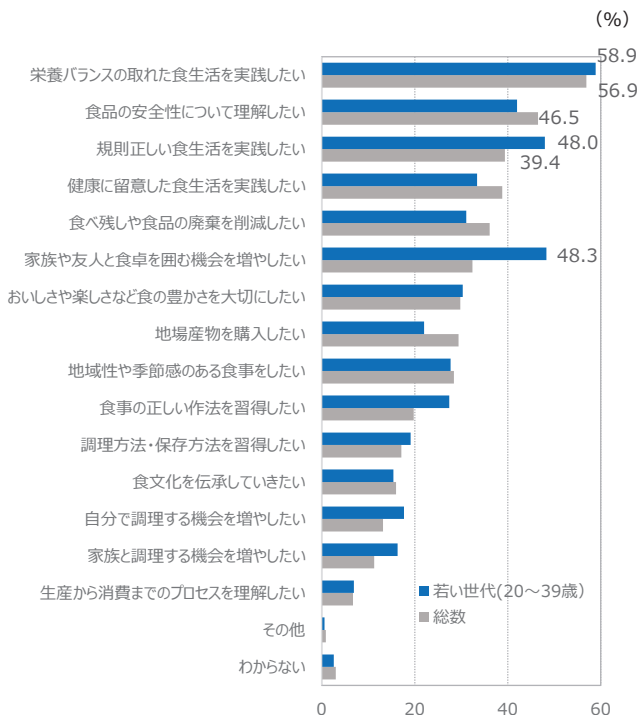


H21…健康に関する意識調査(NHK放送文化研究所)
H26…健康意識に関する調査(厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託)

栄養のバランス

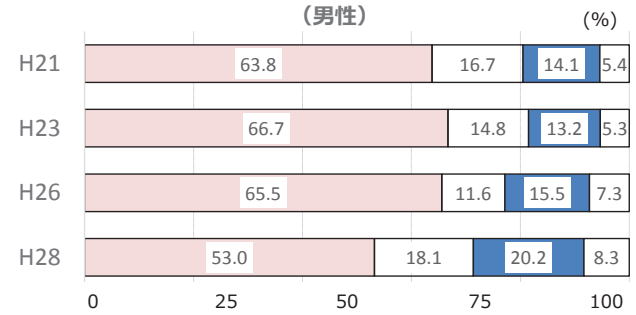
- 栄養バランスのとれた食生活を実践したいという者が、最も多い。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている者は減少傾向にある。

今後の食生活で特に力を入れたい食育の内容

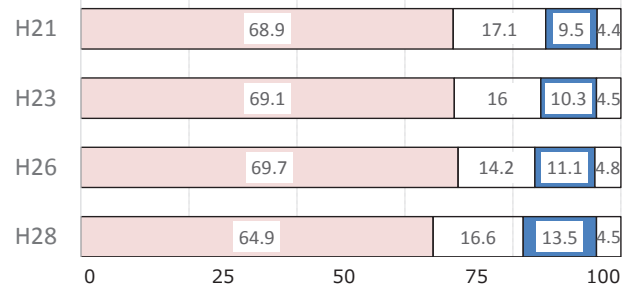


平成28年度「食育に関する意識調査報告書」(農林水産省)

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べている者の推移 (男性)



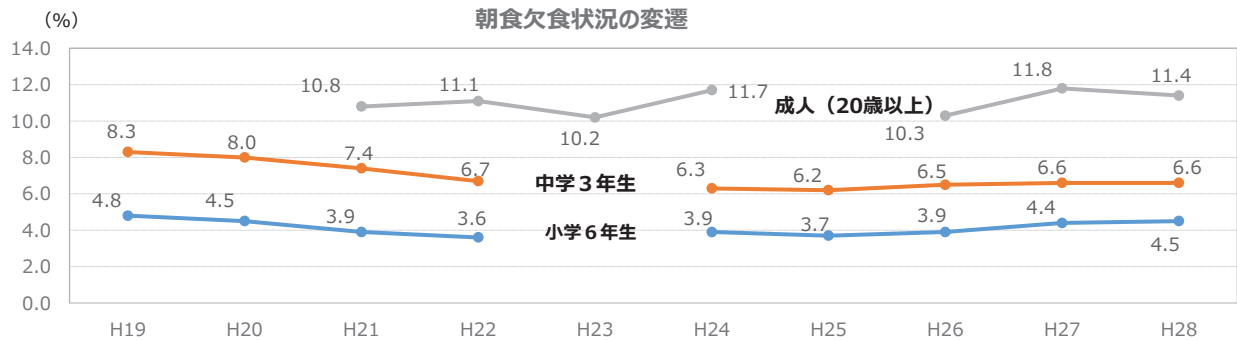
(女性)



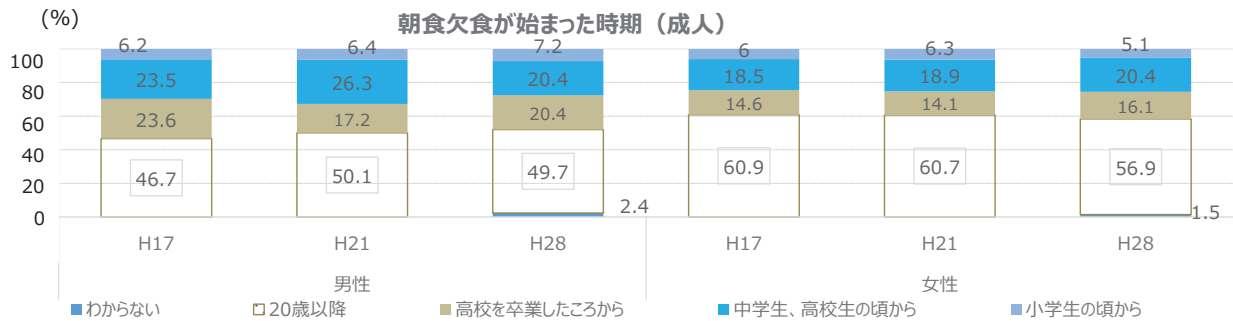
□ ほぼ毎日 □ 週に4~5日 ■ 週に2~3日 □ ほとんどない
「食育に関する意識調査」(H27まで内閣府、H28農林水産省)

朝食の欠食

- 朝食の欠食者の割合は、経年変化はあまりみられない。また、小中学生よりも成人の方が高い。
- 欠食が始まった時期は、20歳以降からという者が男女ともに半数近くを占めている。



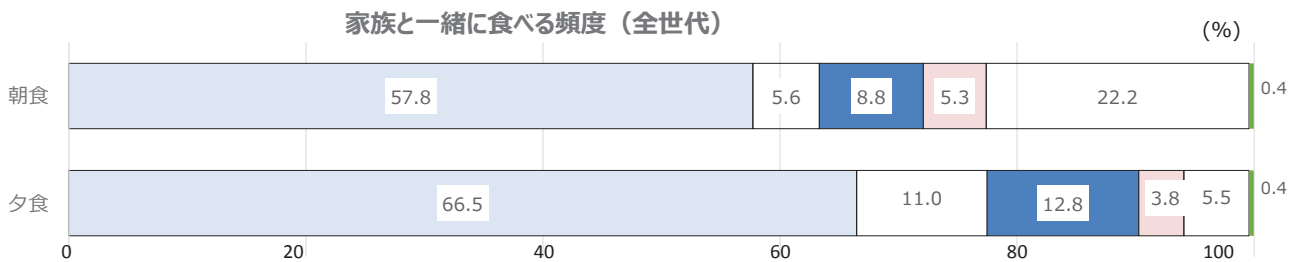
成人…「週に2〜3日食べる」「ほとんど食べない」と回答した人の割合(食育に関する意識調査:内閣府・農林水産省)
 児童・生徒…「あまり食べていない」「全く食べていない」と回答した人の割合(全国学力・学習状況調査)



H17,H21…国民健康栄養調査(厚生労働省) H28…H28食育に関する意識調査(農林水産省)※朝食を食べる頻度について「ほとんど食べる」以外の回答をした人が対象

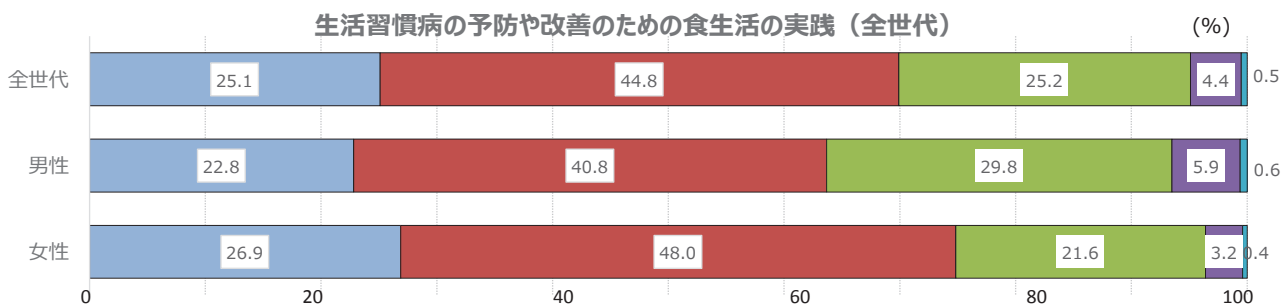
共食・孤食、生活習慣病の予防や改善

- 家族と一緒に食べる頻度は、6割程度である。
- 生活習慣病の予防や改善のために普段から「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した者は、全体で約7割で女性で高く、男性で低くなっている。



□ほとんど毎日 □週に4〜5日 □週に2〜3日 □週に1日程度 □ほとんどない ■無回答

H28食育に関する意識調査(農林水産省)※家族と同居している人が対象



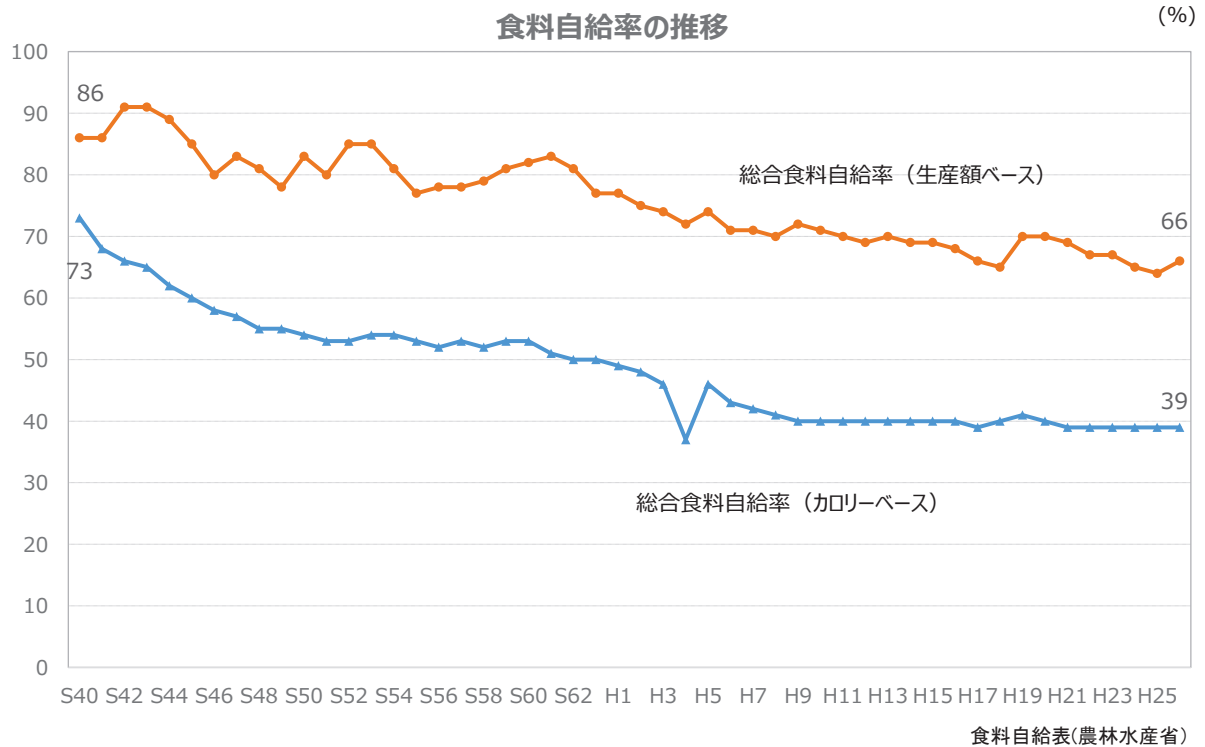
■いつも気をつけて実践している ■気をつけて実践している ■あまり気をつけて実践していない ■全く気をつけて実践していない ■わからない

H28食育に関する意識調査(農林水産省)

(2) 生産から消費に至る食の循環への理解の状況

食料自給率

- 食料自給率は、長期的に低下傾向にある。



S40 S42 S44 S46 S48 S50 S52 S54 S56 S58 S60 S62 H1 H3 H5 H7 H9 H11 H13 H15 H17 H19 H21 H23 H25

食料自給率表(農林水産省)

農林漁業体験

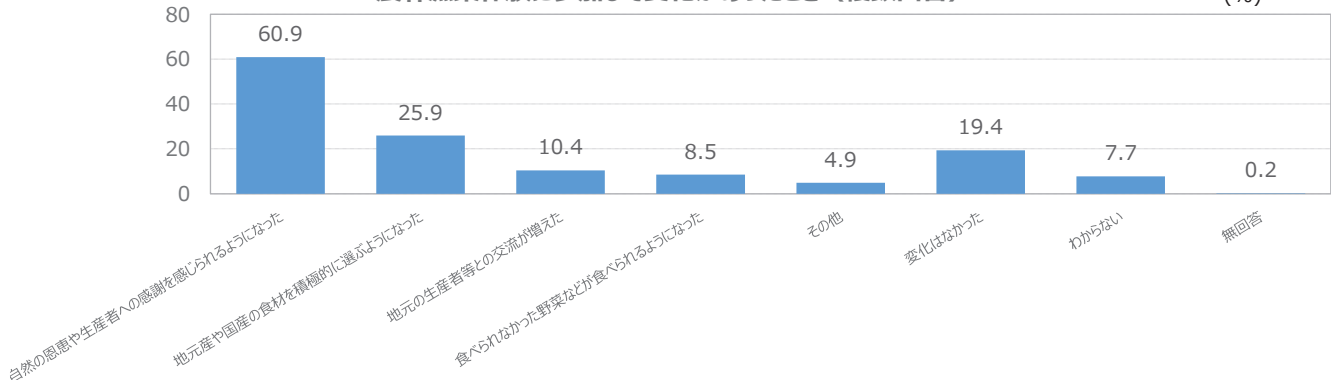
- 農林漁業体験を経験した者 (本人又は家族) の割合は約3割。
- 農林漁業体験に参加して、「自然の恩恵や生産者への感謝を感じられるようになった」「地元産や国産の食材を積極的に選ぶようになった」という者が多く、農林漁業体験を契機として、食やそれを支える人たちへの関心に変化が見られる。

本人又は家族が、農林漁業体験に参加したことがあるか。



食生活及び農林漁業体験に関する調査(H28 農林水産省)

農林漁業体験に参加して変化があったこと (複数回答)

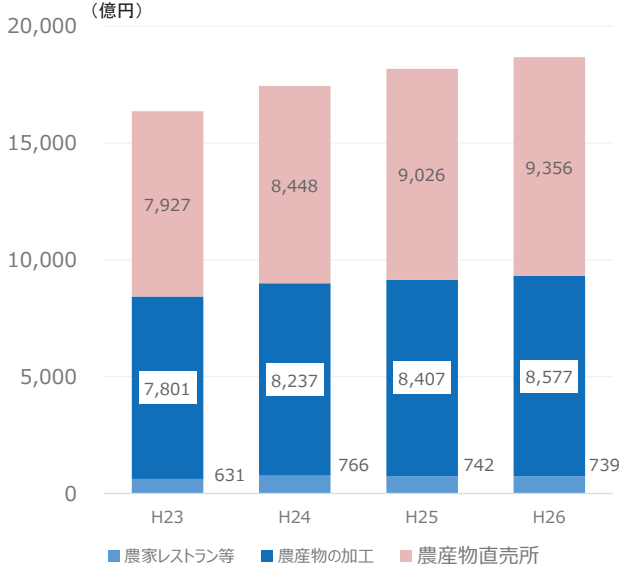


食生活及び農林漁業体験に関する調査(H28 農林水産省)
※農林漁業体験に本人又は家族が参加したことがある人が対象

地産地消

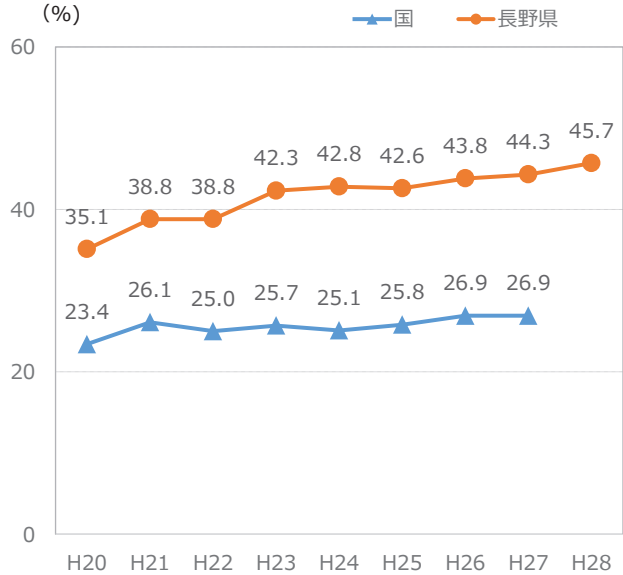
- 自ら生産した地場産物等を活用する農産物直売所、農産物の加工、農家レストランの年間販売金額は増加傾向にある。
- 子どもたちへの地産地消としての取組である、学校給食への地場産物の使用割合は、増加傾向にある。長野県は、国と比べると使用割合が高い。

農産物直売所、農産物の加工、
農家レストランの年間販売金額



第6次産業化総合調査報告(農林水産省)
※H23は、農協等が運営するレストランは含まれていない。H23、H24は、一部地域除外

学校給食における地場産物の利用割合の推移



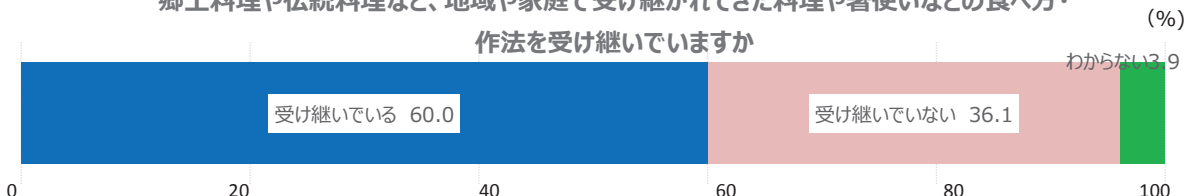
国: 学校給食栄養調査(文部科学省)※H23は、一部の県を除く
県: 長野県農政部、教育委員会調べ

食文化

- 郷土料理や伝統料理など、料理や作法などの食文化を受け継いでいると回答した人は、約6割。
- 2013年、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた食に関する「習わし」として、和食が無形文化遺産に登録された。

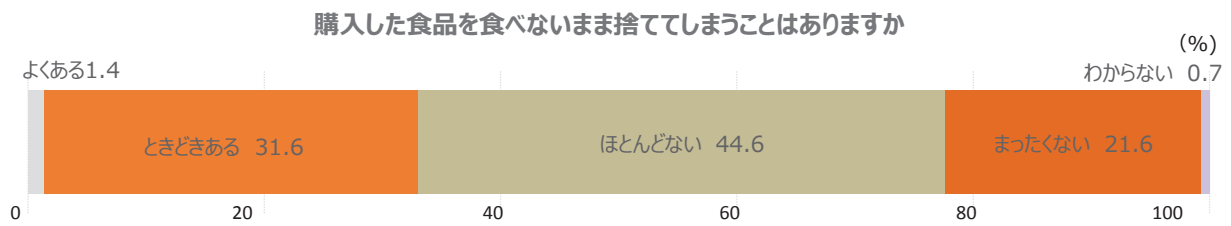
郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や箸使いなどの食べ方・

作法を受け継いでいますか

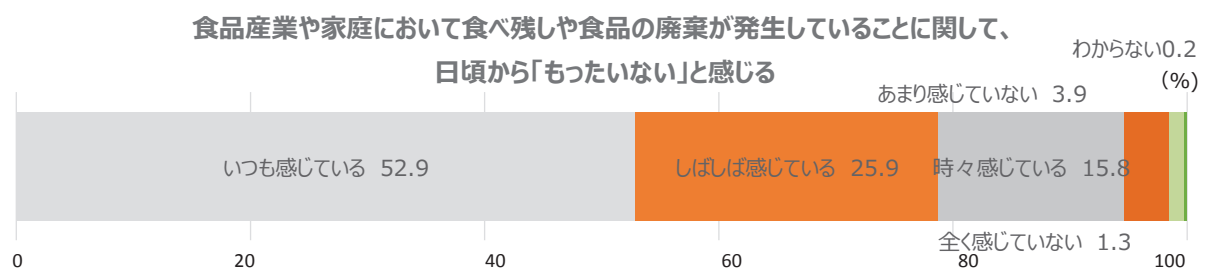


消費行動

- 購入した食品を食べないまま捨ててしまうことが「よくある」、「時々ある」と答えた者は、約3割を超えている。
- 一方で、食べ残しや廃棄があることを「もったいない」と、「いつも感じている」、「しばしば感じている」、「時々感じている」者は9割を超える。



H28食育に関する意識調査(農林水産省)



H28食育に関する意識調査(農林水産省)